

(様式1・小学校用①)

令和3年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田小学校
(令和4年2月2日作成)

1 学校教育目標 進んで学ぶ子 やさしい子 たくましい子	
2 重点目標・努力目標 (1) 学習指導の充実 (2) 幼保小中を一貫した教育の推進 (3) 安全・安心で開かれた学校づくり (4) 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 (5) 豊かな心の育成 (6) 健康でたくましい児童の育成	3 前年度の成果と課題 (成果) ○「児童の安全確保」を最優先事項とし、組織的に感染症防止対策を講じることができた。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、個に応じた具体的な指導内容を提示し実践した。 ○学校図書館教育では、貸し出し冊数は12000冊を超え、読書貯金、読み聞かせ、読書タワーなど取り組めた。 ○学校・学年・学級だより、HP、メール等を有効活用し、積極的な発信に努めた。 (課題) ●新型コロナと共存しながらの行事実施について工夫改善。 ●授業規律を確立し、授業改善を図る。 ●15年間を見通した教育課程の見直し。 ●地域人材・施設等のさらなる有効活用。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校経営方針については校長通信を発行し、共通理解を図ることができた。 ○職員会議等運営は計画的にできた。 ●校務分掌については、一部で偏りが見られた。定期的な部会を実施していきたい。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研修主任を中心に計画的、継続的に研修に取り組めた。公開授業2回、研究授業3回開催した。 ●「授業規律の徹底」が課題である。特に時間を守ることを徹底したい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○2学期始めに「学校おける感染拡大防止対策について」を作成・提示し防止対策を講じた。 ○ショート避難訓練を2回実施した。 ●危機管理マニュアルの改訂が課題である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報管理規定に基づき対応できている。 ○毎月の安全点検、教頭による安全点検を行い、事故を防ぐことができた。 ●危険個所の早期発見と早期対応。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学級・学年・学校だより等を定期的に発行し、情報発信に努めた。 ○授業参観は分散で、懇談会はオンラインで実施した。 ○開校40周年記念事業をPTA主催で実施し、PTAとの連携を深めた。 ○学校運営協議会を5回開催することができた。 ●HPは11月以降、更新できなかった。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○年度当初と年度末に幼保小中連絡協議会を開催し、共通理解を深めることができた。 ●乗り入れ授業のさらなる充実 ●「中学校区3つの実行」の徹底

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童の安全確保」「学校行事を工夫して実施」方針を掲げた。行事をほぼ実施することができた。 ○毎週、校長通信を発行し方針や目標等について教職員に周知し、共通理解を図った。 ●管理職の見届けが課題である。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的対話的で深い学び」の授業改善に取り組んだ。両小スタンダードに基づき授業を行った。 ○授業規律を確立するため、「両小授業の心得」に取り組んだ。 ●個に応じたきめ細やかな指導の充実。 ●低学年への指導の充実。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科と関連させた指導の充実を図った。 ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業では昭和女子大学・高木くみ子先生を招聘し、ご指導いただいた。 ●「評価」等についてさらに研修を深める。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTを効果的に活用し、外国語ルームを有効に利用し、授業の充実を図った。 ○主任が教材準備や授業の流れの提示を行い、学校全体で授業の活性化を図った。 ●中学校乗り入れ授業のさらなる充実。 ●児童の意欲面での向上を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会を主体とし、あいさつ運動やいじめ撲滅の取組ができた。 ○コロナ禍で工夫し、行事を実施した。 ●児童の自己肯定感、自己存在感の高揚。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生児童は修学旅行プレゼン資料をICT機器で作成し、5年生児童にプレゼンした。 ○4年生児童は「車イスバスケット」を体験し、福祉についての見識を広めた。 ●地域の人材、施設等の有効活用。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主任を中心に組織的な対応に努めた。 ○いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ○保護者への対応を積極的に行った。 ●自分の考え・方針をもって対応すること。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「あいさつ運動」等で中学校と連携する機会を設け、進路への興味関心を高めた。 ○いじめ撲滅サミットで中学生と交流することで中学校への期待感を高めた。 ●さらなる家庭・地域との連携。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する児童に対して的確な指導ができた。 ○校内支援委員会を充実させ、就学相談に3名の児童を繋げた。 ○通常学級との交流を積極的に行った。 ●保護者への働きかけが今後の課題である。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○1月末時点で貸し出し冊数15,000冊を超えた。 ○学校司書と連携を図り、図書館運営を充実させることができた。 ○読書タワー等の取組ができた。 ●児童の発達段階に応じた読書の推進。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を有効に活用し、授業を展開できた。 ○9月のオンライン授業では、主幹教諭と情報担当者が中心になり実施することができた。 ●毎日、HPを更新すること。 ●日常を記録（写真）に残す意識を高める。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科やいじめ撲滅と関連させ、人権意識の高揚を図った。 ○夏季休業中に研修会を開き、「ヤングケアラー」について知識を深めた。 ●日常生活から人権意識を高める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	基礎学力の定着 授業規律の確立 主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善	A	○県学力学習状況調査において児童の成績は緩やかに伸びを示しており、基礎学力の定着が確実に図られている。 ●県学の結果について、県の平均値を超える。 ○授業規律を確立するため、「両小授業の心得」に取り組んだ。89.4%の児童が良く取り組んでいると評価した。 ●「徹底する」意識をさらに高くもち指導する。 ○算数科を中心とし意図的、計画的に研修に取り組んだ。公開授業2回、研究授業3回実施し、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善に努めた。 ●自己肯定感、自己有用感を高め、学んだ知識・能力を活用できる児童の育成を図る。
	読書活動	貸し出し冊数 読書活動推進の取組	A	○貸し出し冊数は昨年度より増加し、今年度末で20,000冊を達成する見込みである。 ○学校司書と連携し、児童が「教師のお勧め本」「新刊」等のポップを作成するなど、図書室の掲示物を充実させた。 ○保護者・地域の方に協力を仰ぎ、「読み聞かせ」を月1回程度実施した。 ○コロナ感染対策として、座席数の制限等感染症防止対策を講じた。 ●児童の発達段階に応じた本を勧めること。 ●読書活動の充実を図る取組の実施
	学校応援団の取組	安全・安心のための取組の充実 開校40周年記念事業の取組	A	○児童の登下校については、PTAや自治会見守り隊に協力していただき、見守り活動を行っている。交通事故件数は0である。 ○通学路一部変更の際、PTAや自治会長様等、地域の方のご協力を得ることができた。 ○6月に開校40周年記念事業として、バルーンリリースと航空写真撮影を実施した。12月に記念集会を実施し、記念誌・記念品を配付した。 ●人材確保、人的財産の計画的な有効活用

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○行事の実施・・・感染拡大防止策を講じ工夫しながら、運動会や授業参観等の行事を概ね実施することができた。持久走大会や音楽発表会は授業時数等の理由から実施できなかった。
○授業規律の確立・・・「両小授業の心得」を提示し全校で取り組んだ。各学期に児童にアンケートを実施し、授業改善の一助となった。最終的に89.4%の児童がよく取り組んでいると評価した。
○児童の安全確保・・・2学期始めに保健主事と養護教諭が中心となり「学校における感染拡大防止対策について」を作成・提示し、全教職員で共通理解を図り感染症防止対策を講じた。
○研修への取組・・・研修主任を中心に計画的、継続的に取り組むことができた。算数科を中心教科として公開授業2回、研究授業3回実施した。県学調や全国学調では緩やかな伸びが見られる。
○生徒指導・・・生徒指導主任を中心に様々な事案に組織的に対応することができた。
○特別支援教育・・・コーディネーターが各担任に具体的な指導内容を伝え支援することで安心して指導できる体制が整っている。校内支援委員会も充実したものになっている。
○学校図書館教育・・・コロナ禍ではあったが、貸出冊数は前年度を超える見込みである。「読み聞かせ」はほぼ計画どおり実施することができた。
○開校40周年記念事業の取組・・・PTAとの連携を深めることができた。6月に記念事業(バルーンリリース、航空写真撮影)を実施し、12月に記念誌等を地域の方や児童へ配付することができた。

6 次年度の改善策

○学力向上・・・個に応じたきめ細やかな指導の充実を図ること、低学年への指導の充実を図ることが課題である。また、授業規律の確立についても全校で同じ意識で指導できるよう心掛けたい。
○あいさつのできる児童の育成・・・「あいさつができていく」という肯定的な回答が保護者アンケートでは最下位、児童アンケートでは下から2番目であった。3学期から全校体制で取組を実施した。
○生徒指導について・・・「最後まで指導しきる」意識をさらに高め、生徒指導事案に対応していく。
○15年間を見通した教育課程の見直し・・・両新田中学校校区の目指す子ども像の実現を目指し、教職員間の共通理解を深め取組をさらに充実し、継続していく。
○地域人材・施設等のさらなる有効活用・・・特に学校運営協議会については、教職員とともに歩んでいく体制を確立し、本校をよりよくするよう努めていく。

